

# 本当に市民の暮らしを根底から支える市政にしてください！

## 平良木議員が4議案について反対討論

9月議会最終日の9月27日の本会議では、4つの常任委員会審査の報告、討論、採決などが行われました。

日本共産党議員団は議案のうち昨年度の一般会計決算認定、国民健康保険特別会計決算認定など4議案に反対し、その他は賛成しました。また、生活保護対象者の冷暖房機器購入費用の助成を求める請願、副市長の選任についての同意案、私立高校の公費（私学助成）増額を求める意見書提出については賛成しました。

採択の結果、日本共産党議員団が反対した4議案は賛成多数で、その他の議案は全会一致で可決しました。注目された生保関連の請願は賛成が10、反対が20となり、委員会に続いて本会議でも不採択となってしまいました。

採決に先立って行われた討論では、日本共産党議員団の平良木議員が昨年度一般会計決算など4議案について反対理由

をのべました。

同議員は、一般会計決算認定について、「昨年度決算の認定の際にもっとも重視すべきは、いうまでもなく、コロナ禍から市民の命と健康を守る支援策がどれだけ実行できたかということだ。加えて、昨年の暮れから顕著になった原油高騰によるエネルギー価格の上昇に伴う国民生活の困窮に対して、どんな手立てを講じてきたかということも重要だ」と述べたうえで、「そうした視点で見ると、残念なことに時宜を得た素早い支援策が適切に打たれたとは言えない。打ち出されたいくつかの支援策も、その多くは国や県の枠組みの下で行われたものが多く、広い市民の求める支援策は充分実現できなかったと評価せざるを得ない」と反対理由を述べました。

そして、公共施設を「適正配置」の名の下に、現に利用されている施設を含め

て廃止、譲渡している点などにも言及、「前任者による予算を無批判にそのまま執行するのみで、本質はほとんど変わらない市政運営であることが日増しに明らかになってきていることは残念だ。これを機に、市政運営の方向を思い切って切り替え、本当に市民の暮らしを根底から支える市政にしていきたい」と述べました。



イラストは討論する平良木議員

## 市長「公約」プロジェクトで論戦

市議会では、3日から、子育て、農林水産など8つの市長「公約」プロジェクトについての各常任委員会または特別委員会の所管事務調査が始まりました。

質疑では、「これまでの取り組みとどう変わるのか」「プロジェクトで検討する意義は何か」など基本を問うものが多かったです。

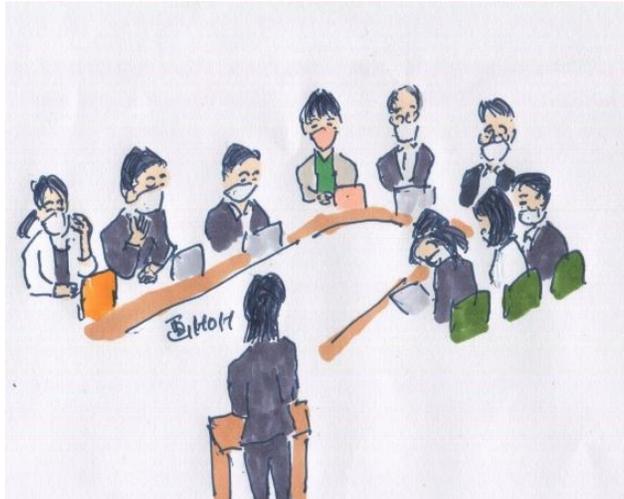
私は、4日の農林水産プロジェクトに関する委員会では、「当市の食糧農業農村基本条例は地域自給

を追求し、目標（数値）を持っていること、家族農業など小さな経営体を含め担い手確保を志向していることなど先進的なものだ。もっと自信を持ってほしい。プロジェクトでは、この条例を中心に据えて、どこに力を入れていくべきかをしっかり決めていってほしい。また肥料、飼料高騰など緊急課題にこえる支援を」と訴えました。

農林水産部長からは、「基本条例、基本計画に基づいてプロジェクトを実行していく」と答弁がありました。

また同日の午後に行われた災害プロジェクトでは、災害対策特別委員として、「プロジェクトでやることを整理して示してほしい」「令和8年度までのスケジュールでは、何を目標にするか、どこまでやるか、出せるものは数値目標もかかげるべきだ」「原子力災害対策は重点中の重点だ。しっかりと課題として位置付けて取り組みを」と訴えました。

八木副市長、防災危機管理部長からは検討、整理の約束をしても



【アキノキリンソウ】キク科の多年草。漢字で「秋の麒麟草」と書きます。草丈は70～80センチ。リンドウ等とともに秋の野の花の代表です。山裾などの日当たりのよいところに黄色い花を咲かせています。花期は8月～11月、雪の降る直前まで咲いているものもあります。花言葉は「予防」「用心」「励まし」など。写真は9月28日、吉川区小苗代にて撮影。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.2080 2022.10.9

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

母が退院してから間もなく三週間になろうとしています。秋も深まり、ヤマボウシの実も素敵な赤い色になってきました。

先日の深夜、時間は午前二時頃のことです。突然、「りんちゃん！」という母の声が聞こえてきて、そばで寝ていた私はびっくりして起きました。母の顔を見ると、なんとなくいつもと違うなと思いました。

どうあれ、母にとっては緊急事態が起きているに違いない、そう思い、まずは長女の部屋に行き、「ばあちゃんがおまんを呼んでいるよ」と伝えました。母は日頃から長女を頼りにしているの、長女を呼んだのだと思いますが、こういうときに母が何を求めているかを一番よくわかるのは長女なんです。

母の様子を見た長女は、「ばあちゃん、口が乾いているみたい。水が欲しいんだと思う」と言って、台所か洗面所に行き、水を少し含ませた口腔ケアスポンジブラシを持ってきて母の口の中に入れました。そのときです、母が再び声を出したのは……長女が「これだよ、この声だよ。うんめーだ」と言っていて、教えてくれました。はっきりにした言葉ではなかったものの、間違はなく「うんめー」だと私も確認できました。

そうこうしているうちに、座敷で寝ていた弟も起きてきて、三人で母の様子をしばらく見守りました。私は最初、緊急事態かなと心配したのですが、母の「うんめー」という言葉を退院後初めて聞いた後は、むしろ、うれしい気持ちになりました。

母の「うんめー」という言葉は退院後十日目に長女が聞いたということですが、私にはそれは奇跡的なことで、再びしゃべることはいらないだろうと思っていたのです。それだけに、母が再び言葉を発したときには感動しました。

夜が明けてからは、事務所で仕事をした

のち、長女の車に乗って自動車屋さんに行き、代車で直江津の三八市へ宣伝に出かけました。市では、多くのお店の人たちが私の母がいま、どうなっているかを知っています。会った人からは、「おばあちゃん、どうだね」と様子を訊かれることが何度もありました。でも、この日は「おかげさんでちよっぴりしゃべるようになったわね」という言葉を返すことができたのです。心もなんとなくはずんでいました。

こうした気持ちは夕方まで続きました。おかげさまで、市役所に行っても落ち着いて会議に臨むことができました。

しかし、夕方、再び一気に緊張が高まりました。午後五時過ぎ、車検の結果などを自動車屋さんのスタッフの人から聴いて、車に乗ろうとしたとき、長女から緊急電話が入ったのです。「いま、看護師さんから来てもらっているんだけど、ばあちゃん、血圧が下がって、呼吸もなんとなくいつもよりも静かになってるし、早く帰ってきて」という知らせを聞き、胸が騒ぎました。

すぐに大湯区に住む弟にも連絡しました。弟はこの日の夜は会議なども入っているとのことでしたが、それも休ませてもらうって駆けつけてくれました。

家に着いて、母の部屋に行くと、母の呼吸は確かに静かで、弱弱しく感じました。酸素飽和度は良好だったものの、最高血圧は一〇〇を切っていました。ただ、血圧、脈数など各種数値は、総合的にみると、退院後一週間時の悪い状態よりも少しだけ良かったので、母は今回も乗り切ってくれると思えました。

そして予想通り、母はその危機を乗り越えてくれました。でも安心はできません。ここ数日、血圧の低い状態が続いていますので、しばらくは一喜一憂の毎日となりそうです。

## 力作ぞろい、勉強になった市展作品

今年度の市展が2日から始まっています。私は3日、市議会の会議が終了後、メイン会場の1つであるオーレンプラザに行き、絵画などを鑑賞してきました。

オーレンでは、やはり知っている人の作品が気になります。高校の時の同級生、内山さんの作品、柿崎区の相沢さん、篠原さん、吉川区の細井さんの作品などに見入りました。絵を描くために勉強になった作品もたくさんありました。例えば、妙高市の大口さんの「雪道」（写真右）、雪の色をこんなにも豊かに表現できるのかと感動しました。狩野さんの「晩夏」は絵のきめ細かさに惹かれました。いつかこんな風に描いてみたいものです。会場では、柿崎区の人たちなど何人かから声をかけていただき、私のエッセイのことやイラストなどをめぐって感想を寄せていただきました。音楽グループ、マリキータの10周年記念コンサート



のポスターのイラスト作者が私であることを知っている人が何人かおられ、うれしくなりました。ありがたいことです。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月28日(水)	10月5日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.063	0.060
高士分遣所	0.053	0.053

母が退院してから間もなく三週間になろうとしています。秋も深まり、ヤマボウシの実も素敵な赤い色になってきました。

先日の深夜、時間は午前二時頃のことです。突然、「りんちゃん！」という母の声が聞こえてきて、そばで寝ていた私はびっくりして起きました。母の顔を見ると、なんとなくいつもの違和感を感じました。

どうあれ、母にとっては緊急事態が起きているに違いない、そう思い、まずは長女の部屋に行き、「ばあちゃんがおまんを呼んでいるよ」と伝えました。母は日頃から長女を頼りにしているの、長女を呼んだのだと思いますが、こういうときに母が何を求めているかを一番よくわかるのは長女なんです。

母の様子を見た長女は、「ばあちゃん、口が乾いているみたい。水が欲しいんだと思う」と言って、台所か洗面所に行き、水を少し含ませた口腔ケアスポンジブラシを持ってきて母の口の中に入れました。そのときです、母が再び声を出したのは……長女が「これだよ、この声だよ。うんめーだ」と言っていて、教えてくれました。はつきりした言葉ではなかったものの、間違いなく「うんめー」だと私も確認できました。

そうこうしているうちに、座敷で寝ていた弟も起きてきて、三人で母の様子をしばらく見守りました。私は最初、緊急事態かなと心配したのですが、母の「うんめー」という言葉を退院後初めて聞いた後は、むしろ、うれしい気持ちになりました。

母の「うんめー」という言葉は退院後十日目に長女が聞いたということですが、私にはそれは奇跡的なことで、再びしゃべることはいらないだろうと思っていたのです。それだけに、母が再び言葉を発したときには感動しました。

夜が明けてからは、事務所で仕事をし

のち、長女の車に乗って自動車屋さんに行き、代車で直江津の三八市へ宣伝に出かけました。市では、多くのお店の人たちが私の母がいま、どうなっているかを知っています。会った人からは、「おばあちゃん、どうだね」と様子を訊かれることが何度もありました。でも、この日は「おかげさんでちよっぴりしゃべるようになったわね」という言葉を返すことができたのです。心もなんとなくはずんでいました。

こうした気持ちは夕方まで続きました。おかげさまで、市役所に行っても落ち着いて会議に臨むことができました。

しかし、夕方、再び一気に緊張が高まりました。午後五時過ぎ、車検の結果などを自動車屋さんのスタッフの人から聴いて、車に乗ろうとしたとき、長女から緊急電話が入ったのです。「いま、看護師さんから来てもらっているんだけど、ばあちゃん、血圧が下がって、呼吸もなんとなくいつもよりも静かになってるし、早く帰ってきて」という知らせを聞き、胸が騒ぎました。

すぐに大湯区に住む弟にも連絡しました。弟はこの日の夜は会議なども入っているとのことでしたが、それも休ませてもらうって駆けつけてくれました。

家に着いて、母の部屋に行くと、母の呼吸は確かに静かで、弱弱しく感じました。酸素飽和度は良好だったものの、最高血圧は一〇〇を切っていました。ただ、血圧、脈数など各種数値は、総合的にみると、退院後一週間時の悪い状態よりも少しだけ良かったので、母は今回も乗り切ってくれると思えました。

そして予想通り、母はその危機を乗り越えてくれました。でも安心はできません。ここ数日、血圧の低い状態が続いていますので、しばらくは一喜一憂の毎日となりそうです。

## 力作ぞろい、勉強になった市展作品

今年度の市展が2日から始まっています。私は3日、市議会の会議が終了後、メイン会場の1つであるオーレンプラザに行き、絵画などを鑑賞してきました。

オーレンでは、やはり知っている人の作品が気になります。高校の時の同級生、内山さんの作品、柿崎区の相沢さん、篠原さん、吉川区の細井さんの作品などに見入りました。絵を描くために勉強になった作品もたくさんありました。例えば、妙高市の大口さんの「雪道」、雪の色をこんなにも豊かに表現できるのかと感動しました。狛野さんの「晩夏」は絵のきめ細かさに惹かれました。いつかこんな風に描いてみたいものです。会場では、柿崎区の人たちなど何人かから声をかけていただき、私のエッセイのこともイラストなどをめぐって感想を寄せいただきました。音楽グループ、マリキータの10周年記念コンサートのポスターのイラスト作者が私であることを知



ている人が何人かおられ、うれしくなりました。ありがたいことです。イラストの下の絵は、大島区田麦での風景を描いた、梨本十カさんの「一服」という作品です。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月28日(水)	10月5日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.063	0.060
高士分遣所	0.053	0.053

母が退院してから間もなく三週間になろうとしています。秋も深まり、ヤマボウシの実も素敵な赤い色になってきました。

先日の深夜、時間は午前二時頃のことです。突然、「りんちゃん！」という母の声が聞こえてきて、そばで寝ていた私はびっくりして起きました。母の顔を見ると、なんとなくいつもと違うなと思いました。

どうあれ、母にとっては緊急事態が起きているに違いない、そう思い、まずは長女の部屋に行き、「ばあちゃんがおまんを呼んでいるよ」と伝えました。母は日頃から長女を頼りにしているの、長女を呼んだのだと思いますが、こういうときに母が何を求めているかを一番よくわかるのは長女なんです。

母の様子を見た長女は、「ばあちゃん、口が乾いているみたい。水が欲しいんだと思う」と言って、台所か洗面所に行き、水を少し含ませた口腔ケアスポンジブラシを持ってきて母の口の中に入れました。そのときです、母が再び声を出したのは……長女が「これだよ、この声だよ。うんめーだって」と言って、教えてくれました。はっきりにした言葉ではなかったものの、間違いなく「うんめー」だと私も確認できました。

そうこうしているうちに、座敷で寝ていた弟も起きてきて、三人で母の様子をしばらく見守りました。私は最初、緊急事態かなと心配したのですが、母の「うんめー」という言葉を退院後初めて聞いた後は、むしろ、うれしい気持ちになりました。

母の「うんめー」という言葉は退院後十日目に長女が聞いたということですが、私にはそれは奇跡的なことで、再びしゃべることはいらないだろうと思っていたのです。それだけに、母が再び言葉を発したときには感動しました。

夜が明けてからは、事務所で仕事をした

のち、長女の車に乗って自動車屋さんに行き、代車で直江津の三八市へ宣伝に出かけました。市では、多くのお店の人たちが私の母がいま、どうなっているかを知っています。会った人からは、「おばあちゃん、どうだね」と様子を訊かれることが何度もありました。でも、この日は「おかげさんでちよっぴりしゃべるようになったわね」という言葉を返すことができたのです。心もなんとなくはずんでいました。

こうした気持ちは夕方まで続きました。おかげさまで、市役所に行っても落ち着いて会議に臨むことができました。

しかし、夕方、再び一気に緊張が高まりました。午後五時過ぎ、車検の結果などを自動車屋さんのスタッフの人から聴いて、車に乗ろうとしたとき、長女から緊急電話が入ったのです。「いま、看護師さんから来てもらっているんだけど、ばあちゃん、血圧が下がって、呼吸もなんとなくいつもよりも静かになってるし、早く帰ってきて」という知らせを聞き、胸が騒ぎました。

すぐに大湯区に住む弟にも連絡しました。弟はこの日の夜は会議なども入っているとのことでしたが、それも休ませてもらうって駆けつけてくれました。

家に着いて、母の部屋に行くと、母の呼吸は確かに静かで、弱弱しく感じました。酸素飽和度は良好だったものの、最高血圧は一〇〇を切っていました。ただ、血圧、脈数など各種数値は、総合的にみると、退院後一週間時の悪い状態よりも少しだけ良かったので、母は今回も乗り切ってくれると思えました。

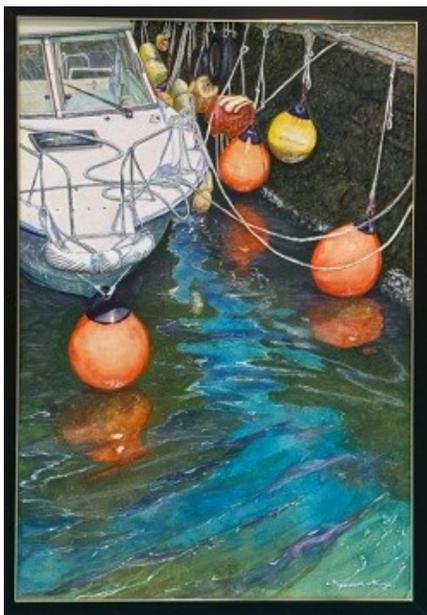
そして予想通り、母はその危機を乗り越えてくれました。でも安心はできません。ここ数日、血圧の低い状態が続いていますので、しばらくは一喜一憂の毎日となりそうです。

## 力作ぞろい、勉強になった市展作品

今年度の市展が2日から始まっています。私は3日、市議会の会議が終了後、メイン会場の1つであるオーレンプラザに行き、絵画などを鑑賞してきました。

オーレンでは、やはり知っている人の作品が気になります。高校の時の同級生、内山富佐子さんの作品、柿崎区の相澤益行さん、篠原真知子さん、吉川区の細井一貞さんの作品

(右下の絵)などに見入りました。絵を描くために勉強になった作品もたくさんありました。例えば、妙高市の大口満さんの「雪道」、雪の色をこんなにも豊かに表現できるのかと感動しました。狛野浩和さんの「晩夏」は絵のきめ細かさに惹かれました。いつかこんな風に描いてみたいものです。会場では、柿崎区の人たちなど何人かから声をかけていただき、私のエッセイのことやイラストなどをめぐって感想を寄せていただきました。音楽グループ、マリキータの10周年記念コンサートのポスターのイラスト作者が私であることを知っている人が何人かおられ、うれしくなりました。ありがたいことです。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月28日(水)	10月5日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.063	0.060
高士分遣所	0.053	0.053